

4 形成的評価と自己評価の適切な位置づけ

五、研究の実践

1 学習課題設定と提示の工夫
 児童の興味・関心のある課題を提示するとともに、思考を高める発問を工夫して、一人一人の児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。

(授業実践例1参照)

2 操作的活動の効果的な位置づけ

数学的な考え方を練り上げるために操作的活動を指導過程に効果的に位置づける。(授業実践例2参照)

3 発問の工夫と児童の反応

発問の意図を明確にする。

(2) 1 発問の内容はより具体的に主発問と補助発問を指導過程の中に明確に位置づける。

(3) 2 発問の内容はより具体的に主発問と補助発問を指導過程の中に明確に位置づける。

(授業実践例3参照)

4 形成的評価と自己評価の位置づけ

指導過程の中に形成的評価、自己評価、豆テストを取り入れ、一人一人が意欲的に課題に立ち向かい自力解決できるようにする。

(実践例4参照)

六、成果と課題

1 成果

(1) 学習内容を的確にとらえ、児童の実態を考慮し、課題設定と提示の工夫をした結果、課題意識が高まり、主体的に取り組む姿勢がみられるようになった。

(2) 操作的活動を効果的に位置づけることによって、意欲的に学習に取り組む、数学的な考え方が深まり、多様な考え方で自力解決が図られるようになってきた。

(3) 発問を精選することによって、発言や話し合いが活発になり、多様な考えを出し合って思考の練り上げができるようになってきた。

(4) 指導過程の中に評価を位置づけることによって、児童のつまづきを早期発見し、治療することや、個別指導に役立てることができた。また児童も自己たしかめをすることにより、自力解決する力が育ってきている。

2 課題

(1) 授業の組織化において、学習形態(一斉・グループ・個別)を工夫し、より効果的ながる指導法の改善に努める。

(2) 自己評価、形成的評価の効果的な位置づけやその活用を努力する。



実践例4

(1) 形成的評価 (1年 3口の加法計算)

※解決の見通しをもつ段階の評価

事実の変化をおはじきにおきかえることができたか。(操作・机間指導)

3	2	1
---	---	---

(2) 自己評価 (6年 比例)

① 自分の考えで比例のグラフがかけたか。	3	2	1
② 比例のとくちょうがわかったか。	3	2	1
③ 比例のグラフを正しくかけたか。	3	2	1

(3) ※べんきょうはんせいカード(1・2年)

◎よくできた ○ふつう △よくできない
 月 日 よう日

1	たのしくべんきょうができた。	○
2	手をあげてはっぴょうができた。	○
3	れんしゅうもんだいをとくことができた。	◎

(4) 豆テスト (1年 3口の加法)

1時間の学習終了時に、本時の学習のねらいがどれほど達成されたかを評価するための豆テストを工夫、作成し実施する。豆テストの内容は、基本的なものと応用的なものを取り入れて実施する。また単元によっては、Aの段階B・Cの段階に分けて、能力別に実施する。

(5)

1.	あたらしいすいそくに、はじめにきんぎょが5ひき入っています。つぎに2ひきいれました。また3ひきいれました。すいそうになんびきはいつていますか。式	こたえ	
2.	① 2+2+3	② 4+1+3	略

授業実践例3

〈かけざん〉-2年-

学習課題

だんごの計算のしかたを考えよう。

(本時のねらい)

〔四の段の九九構成ができ、かける数が1増えると、積が4ずつ大きくなるがわかる。〕

※見通しをもつ段階から解決する段階

◎主発問

- T だんごが3本できた人の点数は、どのようにして計算すればよいでしょう。考えを発表してください。
- C だんご1こずつ数えて12こあるので12点です。
- C 4+4+4にして12点です。
- C 4の3ばいだから12点です。
- C 4×3だから12点です。

◎主発問

- T 式を書いて自分の得点を調べてみよう。(机間指導、算出法につまずきのある児童への助言指導)
- T 4本できた人の点数を発表してください。
- C 4の4ばいで16点です。
- C 4×4で16点です。
- C 3本の人が12点だったので12+4で16点にしました。

◎主発問

- T では、3本の点数と4本の点数では何点ちがいますか。
- C 4点多いです。(理由は前にでて)
- C 4点ちがいます。(賛成のサイン)

(考察)

発問を精選し、発問の意図がはっきりとしていたため、児童の発言が活発で、生き生きとした授業の展開ができた。